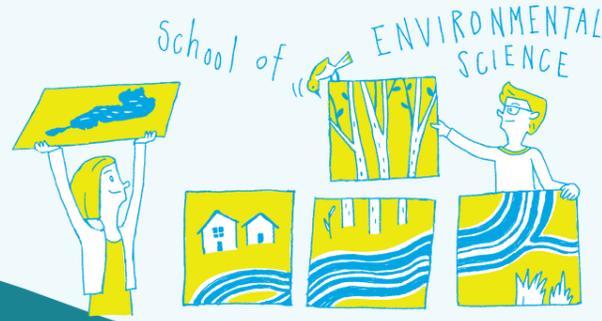


環境科学部

- ◆環境生態学科
- ◆環境政策・計画学科
- ◆環境建築デザイン学科
- ◆生物資源管理学科



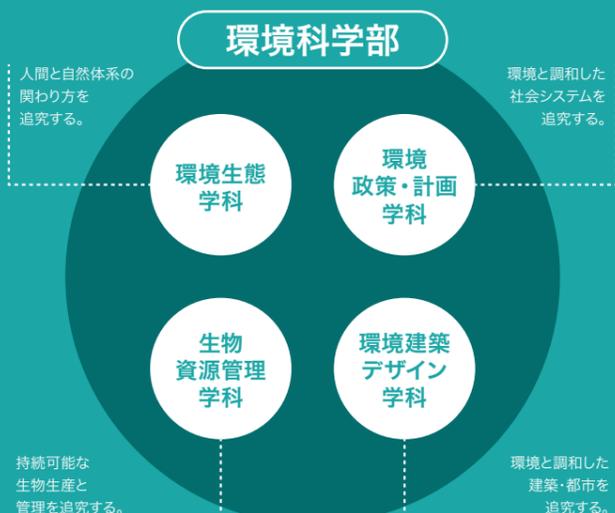
環境課題と環境創造に取り組むため、高い視点と広い視野を身につける。

今日、世界が直面している三つの大きな課題、それは食料生産、エネルギー供給、そして環境保全です。ほんの数十年前まで、私たちは自然環境がこれほど大きく変化してしまうとは考えもおおびませんでした。しかし、湖沼の富栄養化に代表される地域の環境問題から、地球温暖化や酸性雨など地球規模の環境変化に至るまで、私たちをとりまく環境は大きく変容し、私たち自身の生活を脅かすまでになっています。

自然環境と調和した人間社会を創造してゆくためには、環境問題に対する幅広い視野、そして問題を解決し、環境を創造するための専門知識と技術が必要です。環境科学部では、環境問題を自然科学と社会科学の両側面から深く追求した教育・研究を行うことにより、私たちをとりまく環境を総合的に把握できる能力と、環境問題を解決し、環境を創造するための高度な専門知識と技術を併せ持った人材を養成することをめざしています。

◆学びのポイント

- Point 1** 1年次から基礎科目と同時進行で、専門的な科目が学べます。
環境科学部では、英語や数学などの基礎科目や人間学の科目と並行して、1年次から環境科学関連の専門科目を履修し、環境科学の基礎を身につけます。
- Point 2** 環境フィールドワークなど、現場重視の授業が豊富。
1年次から行われる専門科目の一つに環境フィールドワークがあります。実際に野外に出て行き、自分の目で確かめることによって、人間活動と地域社会・自然環境との関係について学ぶことができます。
- Point 3** 琵琶湖をとりまく地域の自然・社会環境やまちづくりがテキスト。
琵琶湖はもろんのこと大学をとりまく地域環境と生活空間から、環境問題や自然・社会との調和について学びます。



◆学部共通基礎科目例

フィールドワーク

環境フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ
学部教員

1～3年次を対象に「環境フィールドワーク」を実施しています。琵琶湖やその周辺に出かけ、観て・聞いて・触れて体験学習し、調査・分析結果をまとめてプレゼンテーションする手法について学びます。

講義

環境科学概論Ⅰ
小泉 尚嗣・泉 泰弘
高倉 耕一・齋谷 泰行・後藤 直成

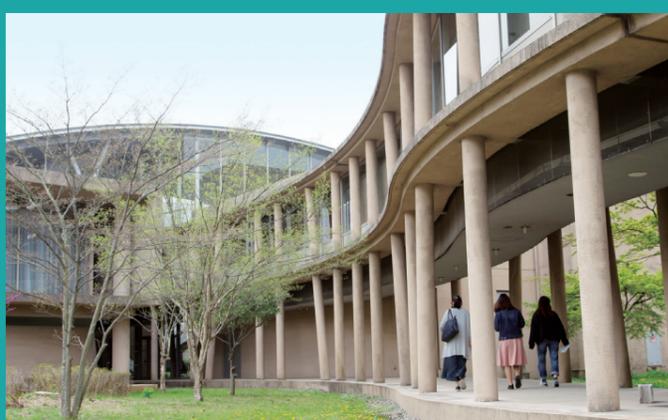
地球環境を構成する要素と環境変化の時空間スケールを把握した上で、土壌環境ならびに陸域・水域生態系の基本的構造とこれらに見られる今日的な諸問題について学びます。

講義

環境科学概論Ⅱ
井手 慎司・戸澤 竜一
伊丹 清・上河原 献二・瀧 健太郎

多様な形で生じる環境問題は、社会の仕組みや制度と密接な関係を持っています。環境問題の解明と解決のために必要な社会的な視点やアプローチ方法について学びます。

フィールドワークは4学科の学生が集まるグループで行います。各分野の意見が聞けたり、統合的に考えられて楽しいです。



フィールドステーション（附属実験施設）

環境科学部は4つのフィールドステーションを持っています。それぞれの専門分野を深く研究・教育するために重要な施設です。

◆圃場実験施設

持続可能な生物生産や植物生態に関する研究や実習ができます。水田や畑があり、ビニールハウス、気象観測設備などが設置され、羊の飼育やキノコ類の栽培をしています。



◆集水域実験施設

3つの森林実験流域と宿泊して実験できる施設で、流域の水質、景観、自然生態系の保全と管理のための教育・研究が行われています。イヌワシやクマタカが棲み、冬は1～2m積雪します。



◆湖沼環境実験施設

琵琶湖生態系を調査・研究するための施設で、水生生物を飼育するための設備や様々な機器分析ができる実験室があります。また、実習調査船「はっさか」を有しています。



◆木造免震実験棟

住宅用の免震工法の開発を目的とした木造2階建免震建物で、地震計・変位計・風速計を備えています。音環境の測定、仕上げ材料暴露試験など木造の学習にも活用します。



TOPIC 1 滋賀県立大学環境ブックレットの出版

滋賀県立大学環境科学部では、開学以来フィールドワーク (FW) の重要性に着目し、環境FWという授業を行っています。2009年度に、環境FWで我々が培ってきた成果を環境ブックレットという形で刊行しました。県内外の高校や大学など教育関係者だけでなく、行政やNPO、あるいは市民のみならずにも活用していただけるようまとめてあります。これまでに第1巻から第8巻が刊行されました。第1巻は琵琶湖のゴミ、第2・3・7巻はフィールドワーク心得帖、第4巻は環境と人間、第5巻は科学的和文法、第6巻は内湖と人びとの営みをテーマとしています。第8巻は有機農業での米作りについてです。



出版済みの環境ブックレット 第1巻～第8巻

TOPIC 2 竹の会所プロジェクト

震災と月後に訪れた気仙沼で、「みんなが集まる場所が津波で流された」ことを聞き、何ができるかと悩みながらも決意したのが、地元の竹で集会所「竹の会所」を建築するプロジェクトでした。道具も旅費も自前のテント生活、工事はすべて手作業で難航を極めました。迎えた竣工の日、この場所には多くの笑顔が集まりました。「一人ひとり小さな力でも、合わせれば大きな力になる」その思いを実感した学生たちが、地域の人々との継続的な交流活動を目的とした「たけとも」を結成し、活動を続けています。



被災地で広がる環境建築デザイン学科の学生の活動

◆授業ピックアップ

- 環境生態学科 犬上川河辺林での植物調査
- 環境生態学科 琵琶湖での水質調査
- 環境政策・計画学科 環境政策デザイン論・演習
- 環境政策・計画学科 政策形成・施設演習
- 環境建築デザイン学科 在学生が設計したフィリピン仮設住宅
- 環境建築デザイン学科 卒業設計学生作品
- 生物資源管理学科 野菜類の栄養繁殖実験
- 生物資源管理学科 還元糖の定量